令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜後期募集）

専門科目「学校臨床心理学」（１／２）

**学校臨床心理専攻　学校臨床心理専修**

以下の注意事項をよく読み，次頁からの問題に解答しなさい。

## 注意事項

①　この試験問題の構成と配点は以下の通りである。

**問題１から問題４**：〔２頁〕
４つの問題の中から２つの問題を選んで解答すること。
配点は，１問あたり１００点。２問で２００点。

②　解答用紙の（　）のなかに，選択した問題の番号を記入すること。

③　答案が解答用紙に書ききれなくなった場合は，当該の解答用紙の裏面に続けて書くこと。

④　２枚の解答用紙のそれぞれに受験番号を記入すること。

**問題１.**

学習のメカニズムについて，下記の四角の枠囲みで示した薬物療法の例と関連付けながら論じなさい。なお，解答の際には下記の括弧{　　}内の１０個の用語を解答文中に使用し，使用した用語には下線を引くこと。ただし，各用語についての下線は初出箇所のみでよい。

> 血中アセトアルデヒド濃度が上昇すると，悪心・嘔吐などの不快な反応を引き起こすことが知られている。この作用を応用して，アルコール依存症の薬物療法のひとつが考えられる。すなわち，アルデヒド脱水素酵素（ALDH）を阻害する抗酒薬を事前に服用しておくことによって，飲酒をするとALDHが十分機能しないために，血中アセトアルデヒド濃度が上昇し，悪心・嘔吐などの不快な反応を引き起こさせて，結果として飲酒行動を減少させようという療法である。

{ 古典的条件づけ　オペラント条件づけ　無条件刺激　条件刺激　ガルシア効果
　オペラント行動　味覚嫌悪条件づけ　無条件反応　条件反応　罰 }

**問題２.**

「社会に開かれた教育課程」について，「カリキュラム・マネジメント」及び「地域との連携・協働」という語句を使用して説明しつつ，その課題点を中心に論じなさい。

**問題３.**

自己効力感を説明しなさい。さらに，自己効力感を高めるための4つの情報源のうち，行為的情報，代理的情報，言語的説得の情報源について説明しなさい。そして，上記３つの情報源を踏まえた指導・援助の方法について，学校教育上の具体的な場面を１つ挙げて論じなさい。

**問題４.**

特定分野に特異な才能のある児童生徒への学校教育における指導や支援のために，今後，取り組む必要のある課題について論じなさい。

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜後期募集）
解答用紙（１／２）

# 専門科目「学校臨床心理学」

| 学校臨床心理専攻　学校臨床心理専修 |
| --- |
| 受験番号　（　　） |

| 得点<br><br>／１００点 |
| --- |

**選択した問題の番号：（　　）**

令和６年度　北海道教育大学大学院教育学研究科入学試験問題（一般選抜後期募集）
解答用紙（２／２）

# 専門科目「学校臨床心理学」

| 学校臨床心理専攻　学校臨床心理専修 |
| --- |
| 受験番号　（　　） |

| 得点<br><br>／１００点 |
| --- |

**選択した問題の番号：（　　）**